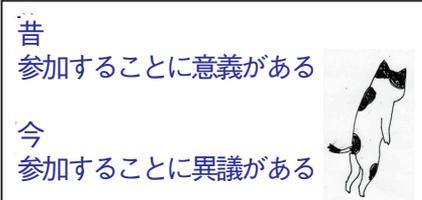
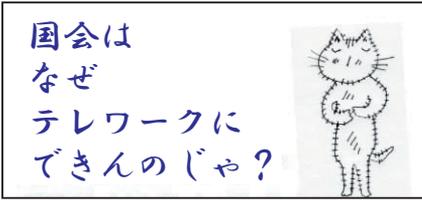


facebookの「主張するネコたち」、頑張つて
ますね。ネコに負けず川柳でも主張しましょう。
川柳は「吐く」と言いますが、「吐き方」で亀
公子さんのアドバイスコーナー開始。6頁。



【主張するネコたちのこと】シェアもコピーも自由です

皆んなで選んだ
今月の秀句

文春砲に撃ち落とされる金バツチ
血の滲みた山土で埋める辺野古沖

遠田亀公子
遠田亀公子

週刊文春が連発する特報でセンセー達は戦々恐々。まともな政治活動していない証明。文春砲にひけをとらない「川柳亀公子砲」。今号から『貴公子のひと言』コーナー開設(7頁)。(周)

例会案内

3月例会
投稿締切
課題「国」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

22日(月)
3句以内
5句以内

3月25日(木)

◆ 目次

川柳互選・課題吟「落」	2
自由吟	3
自選句・連作・ほのぼの川柳	6
亀公子の《川柳ひと言》	6
ほのぼの川柳	7
狂歌登場	8
「足利尊氏」を読んで	9
剣花坊記念誌上川柳大会	10
戦争前夜抄	25
「足利尊氏」復権への道のり	11
編集後記を兼ねて	16

3月の例会は誌上例会です。

2月の
川柳互選

◆点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
◎3句以内、○全体の半数以内。

◆課題吟「落」(互選)

一人3句以内吐
(投句15人/15人の互選)

1	落ち椿主張し続け長らえる	未知子	3	命の言葉語れずセンサー落ちていく	立東爺
1	言えば言う程地に落ちていくオヤジたち	徹乘	3	村落も猪熊も街目指す	広助
1	落雪でケガ人多数蝦夷の地ぞ	宏	3	菅もかい自民公明地に落ちる	北の山
1	コロナ禍も落ち着いたもの株価かな	北の山	4	落陽へ明日への夢を掻き立てる	尊柳
2	早々の落としどころに森隠然	白眞弓	4	廃プラで命を落とす哺乳類	広助
2	ガースーの首相勤め腑に落ちぬ	林	5	東電を避難者の声突き落とす	高坊
2	組織委の会長が鹹レベル落ち	一角	5	オリンピック中止と落書きがでかい	ダン吉
3	ステイホーム奥様族は落胆す	尊柳	6	コロナ禍の公園落葉だけ乱舞	ダン吉
3	限界の集落母は頑として	ダン吉	6	ワクチン後コロナ増税落ちがある	一角
3	菅息子総務省接待落ちし実体	宏	6	昭和史へ目に焼き付いた落下傘	尊柳
3	コロナ落差に暮らし追い付けず	大峰	6	自民党落ち目をカバーワクチンで	一角
			6	落ち椿大地に根ざし生きてやる	未知子
			6	アイムソーリ息子の接待見落とした	未知子
			6	引退か裏で糸引く懲りぬドン	富沙子
			7	照の国序二段落ちもはい上がり	宏
			7	息子の面倒みれぬ親に落第点	高坊
			7	頸切りがコロナが運んで来る恐さ	大峰

- 7 バッサリと落としてやりたい菅の頸 大峰
- 8 長男を墮落させてる父性愛 林
- 8 ひと言が多くて最後に転けました 立東爺
- 8 落とせない命の次はスマホかな 広助
- 8 会長職世界の風で落っこちた 高坊
- 9 地に落ちる前に割れてるスガ器うづわ 林
- 9 落とすなど道真脅す子の受験 白眞弓
- 10 笑い取るつもりで滑った口で落ち 立東爺
- 10 ハローワーク網から落ちた蟻の列 亀公子
- 10 当落も地獄の沙汰も金次第 徹乗
- 11 目の粗い箆で見捨てる落ちこぼれ 亀公子
- 12 スガ落つと電波さざめく日も間近 白眞弓
- 12 辞して尚ドンとなつてる黒い影 富沙子
- 13 墮落した政治家が行く夜の町 徹乗
- 15 文春砲に撃ち落とされる金バッチ 亀公子

◆自由吟 (互選)

一人5句以内吐

(投句15人/15人の互選)

男女平等日本に根付くの諦めた

未知子

大和女男に尽くす習い性やまとぢゆう

未知子

政権よ自分のシール募ったら

一角

火中栗師・父の関係出来レース

宏

一歳児寝起きあばれ時笑みとコラボ

ひろみ

「男っぽい」否「男まさり」恥重ね

徹乗

人のあらばかり探すなマスコミよ

富沙子

あの一〇万住民税で回収される

高坊

福島で基準値超えの魚が獲れた

高坊

核の傘から出ない総理足

大峰

コロナ禍で五輪開催是非を問う

広助

疑問など覆い被さるワクチン狂想曲

高坊

自民党弁え女傍聴で

一角

五輪よりコロナワクチン生命守れ

宏

3	地震ではタンク溢れる造り方	一角	4	五輪のドン内外の堀埋められる	尊柳
3	万能かワクチン頼み安全は	広助	4	マイナンバー便利さ売りに忍びこむ	北の山
3	フェミニズム足引つ張るは女とか	未知子	4	辞任の弁又も自論を滔滔と <small>とうとう</small>	ダン吉
3	美しい国恩すら売らず差別する	白眞弓	4	年功は時代遅れと悟ったか	一角
3	コロナ禍で飲食店は利益パー	ひろみ	4	株高へ日銀必死に買いまくる	尊柳
3	ワクチン社株価売却大儲け	高坊	4	アメリカ以外に行かない菅の足	大峰
3	まつしぐら菅二階の貸し借りで	馬頭琴	4	わきまえぬ女性に嫉妬し口滑る	立東爺
3	センサーになった動機が不純です	立東爺	5	「老害を掃いて捨てろ」は国会で言え	富沙子
3	午前二時コンビニの客ひとりだけ	ダン吉	5	新自由主義誇りも思想も取り上げる	大峰
4	裏金で骨の抜かれたクラゲ族	亀公子	5	コロナ禍も株価ばかりがなぜ上がる	北の山
4	国民は疲れているが五輪へゴー	徹乗	5	あのおっさん支持し続けた県民性	徹乗
4	コロナ禍へ生き抜く野心だけ目覚め	尊柳	5	言葉出ずあれこれそれで通じ合う	ひろみ
4	行き場のない金で資産家株投資	徹乗	5	調査洩れたくさんあつて答え出ず	立東爺
4	官僚の接待漬けは便宜だけ	広助	5	菅政権我田引水お手本に	広助
4	南洋の島沈み始める温暖化	尊柳	6	忘れるな思い出させる揺れがくる	高坊
4	機密費は公助かい868億円	大峰	6	「変われない」政権与党にサヨナラを	林
4	店・個人の保証皆無 自助厳し	宏	6	オリパラとコロナの闘い軍配は	未知子

6	今日もまた接待づけで法通し	馬頭琴	9	人間のエゴ氷河を溶かしたす	広助
6	月満ちて国境照らす和の祈り	立東爺	9	ボランティア内なる力で森自滅	馬頭琴
6	デジタル庁早速意味が不明です	北の山	10	夫婦と親子で血税食い散らす	大峰
6	ワクチンもアメリカ頼みのニッポン	一角	10	民に自助息子に公助ガース氏よ	宏
6	不条理な末世と思うコロナ危機	尊柳	10	とりあえず女性を数だけ用意する	富沙子
7	深き罪背負つてガースー今日も逃げ	林	10	「黙らない」数が物言いう民主主義	林
7	11日花を片手に女性デモ	白眞弓	11	張り付けた仮面の下は森の顔	白眞弓
7	春闘も不発コロナに羽交い締め	亀公子	11	株狂乱街には食えぬ蟻の群れ	亀公子
7	国境に命の壁がガンと立つ	立東爺	11	命より五輪の心配する政府	徹乗
7	息子への威光分与お手の物	林	12	本当の苦しみある人も言えぬ	富沙子
8	神の国まだあの人がおりました	ダン吉	12	五輪旗を半旗に変えるコロナの火	亀公子
8	棒読みのお詫びその上とちつてる	ダン吉	13	失言と言うより本音なんです	ダン吉
8	「黙らない」すべての人に金メダル	林	15	血の滲みた山土で埋める辺野古沖	亀公子
8	わきまえず空気読まずが世を変える	白眞弓			
8	柵の中鶏 <small>とち</small> の自由に金惜しみ	馬頭琴			
8	日本製コロナワクチン出来ぬ謎	未知子			
8	「自己努力」高齢社会で通じるか	富沙子			

◆自選句 中野林

「大事件」起こして去った森先生
沈黙は「禁」と教えた「教師」あり
タガ外し霧の中行く五輪かな
聖子さん女性蔑視の「父」を持つ
コロナ禍をもつと呼び込む五輪かな
わきまえる女人仕える日本国

◆川柳連作 『伏魔殿』 遠田亀公子

妖怪が仕切る無法な伏魔殿
妖怪が手綱を握る神の国
血税が喰い放題の鬼ヶ島
驕りの耳を持たぬ亡者が天下人
腐り切る二世三世犬役人
魍魎魍魎御殿支える役者たち
どの顔も脛に傷ある金バッチ
君が代で大合唱のムジナども
伏魔殿追ひ払われる中の鳩

◆自選句 前田大峰

だんだんとスマホが職制に成つてきた
一〇万年核のゴミとコロナ埋め

◆連作 『森会長』 周立東爺

おぼっちゃま口は達者で「名家」の出
経歴に載らぬ裏道数知れず
村人の「わしらの殿様」誇りなり
慰霊塔死者より大きい寄贈者名
会長職政治献金六千万
ぞくぞくと五輪献金届きます
娘も孫も愛想尽かす爺となり

《おたより》

◆おたより 岩佐ダン吉さんより（大阪）

「天気予報」最後は彬の生誕地・石川を見るよう
になりました。大阪での「誌上句会」も一年が
過ぎ参加者の頭打ちとスタッフの疲弊も目立つよ

新コーナー

亀公子の《川柳ひと言》

鶴彬川柳を標榜する川柳生にとって、どうしても政治的視点で句を詠もうとすると新聞の切り取り句になってしまいう上に、政党のプロバガンダかと思われる内容になっていく傾向がある。

私達が心しておかねばならないのは、川柳もまた短詩文学の一つであること、川柳を通して平和と民主主義の側に立つ人間の一人であることを文学的に表現することにある。

単に悪口を吐く川柳では読者の心を動かすものにならない。だから苦しんで句を捻りだす努力がどうしても必要なのである。

川柳を詠む視点を遠田亀公子さんから《ひと言》として頂戴しました。毎月掲載予定。

うになりました。「あかつき」と「岸和田」は相互の友好関係を強め、誌上の参加、選者の交流などを強める方策をねっています。近く、高校での川柳講座の依頼もあり、今準備中！

◆おたより 小野寺 茂さんより（足利市）

記念すべき700号に参加させて戴き本当に有難度うございました。一般的な川柳誌には無い充実した内容に感動致しました。これを機に川柳への新たな出発点と致したいと思います。（次頁へ）

ほのぼの川柳

- 習いごと多いががんばる子どもたち 神田 鯛
- ばあちゃんち息抜きするよわが子たち 神田 鯛
- 病気にも慣れてきているよわが心 神田 鯛
- 外では紳士内で閑白ろくでなし 未知子
- 昼下がり寝ころんで聞くブラームス 寿賀子
- もう飽きたその隙へウイルス滑り込む 東 爺
- 春すがし野山にウイルスおらんだろ 東 爺

今後ともよろしくご指導をお願い申しあげます。
山林火災のお見舞いの電話を戴きありがとうございます。ご
ざいました。106ヘクターを焼き尽くし、自
然の恐ろしさを身近に感じましたが、幸い住宅や
人身に被害は無く、今まさに午後4時に鎮圧宣言
が発表されました（今ケーブルTVの足利チャン
ネルで）。

《狂歌登場》

それらしいのを作ってみました。《白眞弓さんより》

・七万で魂売って居直ってどこ吹く風のただの強盗

・あちこちの玉子の腐臭激しくて鼻つまみもの監督官庁

《狂歌ってなんだろう？ 有名な狂歌紹介（周）》

・白河の清きに魚もすみかねてもこのにこりの田沼恋しき

・泰平の眠りをさます上喜撰たった四杯で夜も眠れず

・上からは明治だなどといふけれど治明と下からは読む

——狂歌寸解——

和歌を学ぶ歌道から鎌倉・室町に座興として発展。江
戸時代に元の京都狂歌（浪花狂歌）が各地に拡がり、俳

確かに「足利尊氏逆賊説の打破は大きな課題で
す。その点で戦争の歴史的総括は、時に足利尊氏
に関しては未開と言つていいと思います。

コロナ下の混乱した世相にあつては、特に今後
とも『戦争前夜抄』を通して、太平の世を希求し
て行きたいと願つて居ります。（3月1日）

諧と並び新文芸として定着。

◆例句「白河…」は松平定信の寛政の改革を諷刺した。

「泰平の…」はペリー来航で幕府の慌てぶりを皮肉つ
た。上喜撰はお茶の上級銘柄。

「上からは…」は明治維新を皮肉つたもの。「薩長にあ
らざれば人間にあらざる者のごとし」と言われた維新で
あつた。狂歌に共通するのは諷刺の心。

狂歌は川柳成立に影響を与えています。ベースに批判
精神と言葉に対する真剣さがあります。狂歌を低俗化さ
せないで受け継ぐように、川柳を「狂句・叫句」に劣化
させずに受け継ぐことが大切だと感じます。狂歌や狂句
もぜひご投稿をお待ちします。

700号の 「足利尊氏」を読んで

小野寺 茂（足利市）

「和川柳社」1月会報No.700の「足利尊氏なぜ悪人なのか？―皇国史観と戦争―①」を興味深く感動的に拝読致しました。

足利尊氏逆賊説の汚名を歴史的、学術的に晴らして戴き、真に有り難く感謝致します。日本史のおさらい、三悪人の一人に数え挙げられ流布されていることに改めて驚愕し、恐怖を覚えました。

そして元寇（蒙古襲来）と関連させて、方丈一族の鎌倉幕府崩壊から、後醍醐天皇親政の建武中興の失敗（公家偏重）を経て、室町幕府（北朝）と後醍醐天皇（南朝）とに分かれ、南北朝の対立抗争（内乱）が六十年続き、ようやく三代将軍足利義満の時代になって南朝の解消に成功し、南北朝合一に至った歴史を把握することが出来ました。

特に「南北朝正閏論争」のリアリティに富んだ

解明により足利尊氏が尊皇攘夷の明治政府により「反逆の徒」の烙印を押された歴史が鮮明に浮かび上がりました。

そしてこれを期に政界は勿論のこと、読売新聞をはじめとするマスコミ界、国定教科書をはじめ教育界を通じて国民世論を一举に天皇制崇拜（皇国史観）の方向に傾斜して行ったものと考えられます。

従って『戦争前夜抄』に至る要因が明治維新の中に内包されていた事実が明らかです。「次回はこの反逆の徒・足利尊氏が明治政府の富国強兵、大陸侵略への道とつながり、戦後の民主化の中で復権していく過程を考えたい」という次回に“ご期待”です。

ありがとうございました。

井上剣花坊生誕二五〇年記念

誌上川柳大会

石川県から
4人参加
結果紹介

◆岡本聡

風を教えしたたかを教えて柳 (柳・佳作||森山選)
穴あきの樽はいつまでも父でした

(樽・準特選||真弓選、佳作||野沢選)

ずぶ濡れのあなたは寺へ行きたがる(寺・佳作||徳永選)
そのさくら天まで届く術を知る (花・佳作||大西選)

題詠 選者名

〔柳〕 森山 文基(毎週mei川柳会 鳥取)

真島 久美子(卑弥呼の里川柳会 佐賀)

〔樽〕 野沢 省悟(川柳触光社 青森)

真弓 明子(いわき番傘川柳会 福島)

〔寺〕 徳永 政二(びわこ番傘川柳会 滋賀)

平 宗星(東京川柳会 東京)

〔剣〕 梅崎 流青(剣・川柳葦群 福岡)

高鶴 礼子(ノエマ・ノエシス 埼玉)

〔花〕 新家 完司(川柳塔社 鳥取)

大西 泰世(川柳魚座 大阪)

〔坊〕 佐藤 岳俊(川柳人社 岩手)

石川 川柳(東京川柳会 東京)

〔自由句〕 細川 不凍(現代川柳琳琅 北海道)

みんな終わったカマキリの首動く(自由・佳作||細川選)

ネジひとつ落とし軍用機の爆音(自由・佳作||細川選)

◆奥野とみ子

あれ以来長かったねえ除夜の鐘(寺・佳作||徳永選)

◆遠田亀公子

花絶えぬ柳の下の鬼子母神(柳・準特選||真島選)

過疎自慢汗と涙と樽漬けと(樽・佳作||真島、真弓選)

人を喰い生き延びている寺構え(寺・佳作||平選)

蝸牛とは仮のおすがた寺の庭(寺・佳作||徳永選)

銃剣を突き刺している戦争絵(剣・佳作||梅崎選)

銃剣の前に雨傘不退転(剣・佳作||高鶴選)

バラの棘怖れず蝶は舞い降りる(花・佳作||大西選)

ござ唄よ越後山あい風の道(自由・佳作||細川選)

少年は荒野をめざす坊主刈り

(坊・特選||石川選、佳作||佐藤選)

◆周立東爺

迷い道三途の川に寺作る(寺・佳作 平選)

校則の坊主頭が懐かしい(坊・佳作||佐藤選)

銃口に花を差し込む旅に出る

(花・準特選||大西選、佳作||新家選)

連載
戦争前夜抄
25
周立東爺

あしがたかうじ
足利尊氏

逆賊から復権への道のり

②

——皇国史観と戦争と敗戦——

前回に続いて「反逆の徒・足利尊氏」の復権の過程を考えたい。

明治維新から大正、昭和の戦争と敗戦が、中世（南北朝時代の混乱）と深くつながっていることが分かってくる。

日本の十一世紀末、院政開始から織田・秀吉時代までの五〇〇年は大混乱だった。これを引き起こしたものが十三世紀後半、二回の蒙古来襲が大きい。なんせ日本始まって以来最大の「国難」で、支配層の意識が、一挙に外国からの侵略へ向けられ、内政で

は侵略にそなえる準備を余儀なくされた。

それによって社会の矛盾も激化、「急激な変革の時代」に突入していく。こうしたことを念頭におくことがポイント。

筆者の高校の授業が思い出される。元寇について先生が「元寇は二回で済んだ。よかつたと思つてはいけない。当時の人は、今度いつ襲つてくるかと感じて、それから社会が変わつた」と話されていた。この話だけは妙に覚えている。先生の名は浅香山木。大学に移り日本古代・中世史、北陸地域史研究者として多くの著作を残し、一向一揆の著作も多い。しかし若くして死去された（1987没・53歳）。

激動の時代は多くの寵児を生む。中世は朝廷をはじめ支配層（朝廷・貴族）は生き残りをかけ、対立と分裂の抗争にあけくれる。その動乱の極みが、南北朝の動乱だといえる。

青葉繁れる桜井の

(桜井の訣別)

作詞 落合 直文
作曲 奥山 朝恭

鎌倉時代後期は、京都など畿内に住み日本各地の荘園(土地)に利権を持つ大貴族・大寺社らが私兵を手に使った戦争の時代だった。貴族社会の分家化や、武士の守護・地頭によって、都市領主間の抗争が活発した。朝廷も後継を巡り持明院統(北朝)と大覚寺統(南朝)に分裂。

後醍醐天皇は、自身の子孫に皇位させるためにも鎌倉幕府の両統併立を壊すため、足利尊氏らの協力で鎌倉幕府を倒し(元弘の乱)、建武新政を実施する。しかし間

もなく足利尊氏が、独自の武士支援策を布告するなどで朝廷と対立。後醍醐天皇は足利尊氏排除を決意。しかし後醍醐は尊氏に敗れ、大和吉野へ逃げ、南朝政権(吉野朝廷)を樹立した。尊氏の樹立した室町幕府が擁立した北朝との間で、南北朝の内乱が勃発する。中国の歴史に倣った南北朝時代である。

足利尊氏は後醍醐天皇に弓を引いた逆賊となり、明治政府の皇国史観の餌食にされた。昭和戦争時代には、皇国史観のもと戦意高揚の軍歌が作られ、いまでもカラオケバーで歌われている。その中で足利尊氏と闘い敗北した楠木正成を歌った歌がある。「青葉茂れる桜井の」と始まる『大楠公の歌』(1903年M36)十五番まである。メロディーを聞くとだれでも思い出す。YouTubeでも紹介されている。『太平記』によると、「桜井の別れ」のあらまはは次の通り。建武3年5月(1336年6月)、九州で劣勢を挽回して山陽道を怒濤の如く東上してきた足利尊氏の数



著者 森茂暁
 『足利尊氏』
 角川選書

父から直接聞
 も父・母・祖
 話のような話

十万の軍勢にその20分の1ほどの朝廷方・楠木正成くすのきまさよしは死を覚悟し、兵庫湊みなとがわ川の戦場に赴く。途中、桜井駅にさしかかった時、正成は数え11歳の嫡子・正行に「お前を故郷の河内へ帰す」と告げた。「最期まで父上と共に」と懇願する正行に正成は、「お前を帰すのは、自分が討死にしたあとのことを考え、帝のために生き残り、いつの日か必ず朝敵・尊氏を滅ぼせ」と諭したという忠君の物語である。

戦後、「神話を基にした日本史の教科書」が書き換えられた。その混乱の様子は多くの方々が語り、笑い

いた方も多いだろう。

しかし、巷には「日本の三悪人・足利尊氏」なる幻想は続いた。大きく変わる切っ掛けになったのが、1991年1月、NHKが足利尊氏の一代記の大河ドラマ「太平記」を放映したことが大きい。「日本の三悪人」とされ、先の戦争では「軍隊で足利出身というだけでなぐられた」ほどの逆賊・尊氏が主人公になったのは伏線があった。前回の本稿の末尾に紹介した。2冊の資料がポイントである。

① 森茂暁著『足利尊氏』（角川選書）

② NHK歴史誕生取材班『歴史誕生4』（角川書店）

森茂暁（1949.9.9）は、その著『足利尊氏』の序文「新しい足利尊氏理解のために」に、次のように書いている。

……以下、引用……

「足利尊氏および南北朝時代を見直そうという今日のような風潮は一朝一夕に到来したものではない。

ここで尊氏復権の歩みを簡単に回想してみよう。

筆者は平成元年（1989）新潮社刊の『小説新潮』臨時増刊号に「文書一千通の闇——歴史の細道 足利尊氏」と題して小文をかいたことがある。以下はその一部。

NHK大河ドラマで目下「春日局」というのをやっている。（中略）題材は主に鎌倉・戦国時代にとられ、なぜか南北朝時代は敬遠されているように見受けられる。やはり往時の南北朝正閏論のしこりが潜在的に尾を引いているように思う。いわゆる「皇国史観」の呪縛から解放されてもう四十年余年。そろそろ新鮮でのびのびとした南北朝時代の人間像が茶の間に映し出されるのを望みたい。

この文章はNHKのディレクターの目にとまり、総

合テレビの番組「歴史誕生」での一天両帝・異形の時代——南北朝動乱の六〇年」（同年二月一日放送）につながるという予想外の展開を生んだ。なおこのときの放送内容は活性化され、角川書店『歴史誕生4』（一九九〇年八月）に収録された。

そのち平成三年（一九九二）正月からは「太平記」と題した足利尊氏の一代記が大河ドラマとして一年間放送された。加えて、この年の暮れには日本歴史の展開における南北朝時代の重要性を指摘する提言もあつた（南北朝時代の復権（UP）へ東京大学出版会 230）。（略）

こうしたかつこうで伏流していた南北朝時代への感心は、やがて目に見えるかたちで社会の表面に現れてくる。同時代は日本歴史の大きな転換点であつて、その重要性はきちんとひょうかしようとする気運が高まつてきた。それを象徴するのが、平成二四年（2012）一〇月、足利尊氏の地元栃木県立博物館（宇

都宮市)において、同館開館三〇周年を記念して開催された特別企画展「足利尊氏―その生涯とゆかりの名宝」であった。この展示会は全国に所在するゆかりの名宝現物(文書・絵図・肖像画・彫刻・陶磁器など)によって足利尊氏の生涯と歴史的役割を浮き彫りにするイベントであった。

同じ時期に、姫路市の兵庫県立歴史博物館では開館プレ三〇周年特別展として、「赤松円心・則祐」展が開催された。いうまでもなく赤松氏は尊氏の腹心である。東西相呼応した南北朝時代の復権を象徴するできごとであった。その背景にあったのは先人観や偏見を排



NHK取材班
『歴史誕生4』
角川書店

して南北朝
時代を素直

に考えようという新しい時代の息吹であったことは疑いなかろう。こうして南北朝時代に対するまなざしはこれまでとは大きく異なり、評価すべきは評価するという至極当然な方向へと大きく舵をきることとなった。しかし思えば長い道のりであったことはいうまでもない。

引用オワリ

森茂暁さんは1949年生れ。南北朝時代研究の第一人者で、膨大な資料を元に考察する。資料は、足利尊氏だけでも千五百点、嫡子・義詮千七点、後醍醐天皇八百点という膨大な文書量である。普通の学者ではこの収集量はあり得ないと思ひ、経歴をみると、「文部省教科書検定課勤務、同省教科書調査官を経て」とあり納得した。

森茂暁さんの研究や、大河ドラマ「太平記」が足利尊氏評価を変えるきっかけになったことを知った。

(つづく)

編集後記を兼ねて

▼同人・会友・読者も増え、あ

りがたいことです。▼コロナ感染は緊急事態ですね。先日、小生「安倍以外だれでもいいねと言った罪」とレイバーネット川柳に投稿し、選者の乱鬼龍さんに採っていただいたが、「この罪」はだんだん重くなるようです。▼知人の半沢英一さんから川柳一句いただいたので紹介します。

・モリカケの次はスガの親子井 英一

▼去年は井上剣花坊生誕150年で、東京川

柳会と川柳人社（岩手県）共催の「記念誌上句会」の結果が届きました。10頁に紹介。

遠田亀公子さんの句がたくさん採られていました。▼作品の多くはテーマが心情や風景で少々拍子抜け。長文の評論などは剣花坊や鶴彬の記述が多いが、作品選考の評価との溝を感じた。川柳を考える新しい課題ですね。▼「東京の句碑建設」など鶴彬を顕彰する活動の話題もなく残念でした。▼春本番、桜の季節ですが、コロナに引っかけられないよう、句を捻りましょう。（周）

3月例会のご案内（毎月第4木曜日）

◆例会 3月25日（木）◆投稿×切…22日（月）

◆課題 「**国**」 3句以内 ◆自由吟…5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。

◆**コロナ急拡大で「誌上例会」です。よろしく。**

●投稿 FAX(076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

〒送は
下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています！

同人：4000円/年
投句/購読：2000円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30 (3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」